

2025年4月27日 妙義 相馬岳 北陵

メンバー L谷内、村中

天気は終日快晴でした。朝の気温は10°C以下で肌寒く感じましたが、日中は20°C前後まで上がり、出発の1時間以外はシャツ一枚で快適に行動できました。

まず、国民宿舎に1台車をデポし、妙義湖から約500mの地点にある取り付きからハーネスとヘルメットを装着して登山を開始しました。すぐに北陵の尾根に突き上げ、最初から傾斜がきつくなります。妙義山系特有の2~3cmの小石が散らばった斜面は滑りやすく、滑落には十分注意して登ります。登り始めて20分ほど経過したところでムラサキヤシオが見られ、さらに1時間ほど進むと、岩場の木陰にミョウゴコザクラが咲いているを見つけました。

懸垂下降を3回、ロープを使った登攀を2回行いました。懸垂下降はすべて残置を利用しました。1回目の登攀は比較的登りやすかったのですが、泥と灌木の境目が崩れやすく、最後の数手は安定性を確認しながら慎重に登りました。2回目の登攀は、出だしがやや被っていて難易度が高かったです。鎖を利用して鐙を作りながら登り、難所は最初の部分だけでした。全体的に岩場のグリップは良好ですが、安定しているように見えるホールドがポロリと取れることがあり、注意が必要でした。

ゴロゴロとした石の坂道やヤセ尾根、岩場（登攀2回）、懸垂下降があり、飽きることがありませんでした。何度かルート修正をしながら進み、登攀、懸垂下降、ルートファインディングの練習にもなり、相馬岳山頂までの5時間半はあっという間に感じました。山頂からは妙義山系をぐるりと見渡すことができ、その向こうには八ヶ岳も見えました。

裏相馬岳を經由して国民宿舎跡へ下降しました。下降中は右手に北陵のギザギザした稜線が見えます。北陵は小さな上り下りの繰り返しが多く、単純な標高差以上に登る距離があったことを振り返りました。窓穴から北陵ルートを切り取ると、絵になる景色が広がります。窓穴からは心地よい風も吹いていました。下降もノーマルルートではなく、鎖場が多いため、気を抜けません。見晴台で裏妙義を眺めながら休憩し、滑落や転倒に気をつけながら、無事に国民宿舎跡に到着しました。

コースタイム

6:00 取り付き - 10:15 仙人窟 - 10:30 ハサミ岩 - 11:37 相馬岳山頂 - 12:45 窓穴 - 13:25 国民宿舎跡





